

直前東医歯大数学

【1 回目】



問題

【1】 実数 p, q, r, x, y, z に対して、コーシー・シュワルツの不等式

$$(px + qy + rz)^2 \leq (p^2 + q^2 + r^2)(x^2 + y^2 + z^2)$$

(等号成立の条件は $p : q : r = x : y : z$ のとき)(*)

が成り立つから、(*) において $x^2 + y^2 + z^2 = 1$ とすると

$$(px + qy + rz)^2 \leq p^2 + q^2 + r^2$$

すなわち、 $p > 0, q > 0, r > 0, x \geq 0, y \geq 0, z \geq 0$ のもとで

$$px + qy + rz \leq \sqrt{p^2 + q^2 + r^2}$$

が成り立つ。ここで、等号は

$$p : q : r = x : y : z$$

のとき成り立ち、与えられた条件とあわせると

$$x = \frac{p}{\sqrt{p^2 + q^2 + r^2}} (> 0)$$

$$y = \frac{q}{\sqrt{p^2 + q^2 + r^2}} (> 0)$$

$$z = \frac{r}{\sqrt{p^2 + q^2 + r^2}} (> 0)$$

のとき成り立つ。したがって、 $px + qy + rz$ の最大値は

$$\sqrt{p^2 + q^2 + r^2} \quad (\text{答})$$

一方、最小値については、 z を固定すると xy 座標平面上の点 (x, y) は、4 分円 $x^2 + y^2 = 1 - z^2$, $x \geq 0, y \geq 0$ の周上 (両端を含む) に存在する。さらに、この周上の点を通る直線 $px + qy = k (> 0)$ と x 軸、 y 軸との交点をそれぞれ P, Q とすると

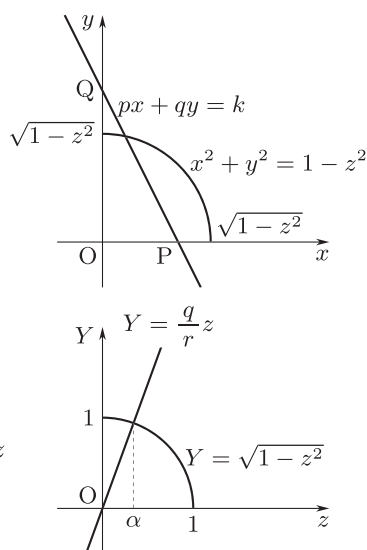
$$OP = \frac{k}{p}, OQ = \frac{k}{q}$$

であり、 $p \geq q > 0$ であるから $OP \leq OQ$ である。したがって、 k が最小となるのは直線 $px + qy = k$ が点 $(0, \sqrt{1 - z^2})$ を通るときである。このとき

$$\begin{aligned} px + qy + rz &\geq p \cdot 0 + q \cdot \sqrt{1 - z^2} + rz \\ &= q\sqrt{1 - z^2} + rz \end{aligned}$$

であり

$$f(z) = q\sqrt{1 - z^2} + rz \quad (0 \leq z \leq 1)$$



とおくと, $0 < z < 1$ において

$$f'(z) = q \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{-2z}{\sqrt{1-z^2}} + r = \frac{r\sqrt{1-z^2} - qz}{\sqrt{1-z^2}}$$

である. ここで, $Y = \frac{q}{r}z$ のグラフと $Y = \sqrt{1-z^2}$, ($0 \leq z \leq 1$) のグラフから, $f(z) = 0$ をみたす解 α がただ 1 つ存在し, 2 つのグラフの大小関係から, 増減表は次のようになる.

z	0	$\cdots$	α	$\cdots$	1
$f'(z)$		+	0	-	
$f(z)$	q	$\nearrow$	極大値	$\searrow$	r

$q \geq r$ であるから, $f(z)$ は $z = 1$ のとき最小値 r をとる. したがって

$$\begin{aligned} px + qy + rz &\geq q\sqrt{1-z^2} + rz \text{ (等号は } x = 0, y = \sqrt{1-z^2} \text{ のとき)} \\ &\geq r \text{ (等号は } z = 1 \text{ のとき)} \end{aligned}$$

となるから, 以上より $px + qy + rz$ は $x = 0, y = 0, z = 1$ のとき, 最小値は

r (答)

【配点の目安】

配点 : 25 点

- ☐₁ コーシー・シュワルツの不等式を述べて 5 点
- ☐₂ 等号成立条件を述べて 5 点
- ☐₃ 答に 5 点
- ☐₄ z を固定したときの最小値を z を用いて表して 5 点
- ☐₅ 答に 5 点

【2】(1) 与えられた条件を

$$100x + 10y + z = x^3 + y^3 + z^3$$

$$\iff x^3 + y^3 = 100x + 10y + z - z^3 \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

と変形すると、①の右辺の一の位の数は $z - z^3$ を 10 でわった余りに等しい。そこで、 $z - z^3$ を 10 でわった余りをすべて書き出すと次の表ようになる。

z	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
z^3	0	1	8	27	64	125	216	343	512	729
z^3 の一の位	0	1	8	7	4	5	6	3	2	9
$z - z^3$	0	0	-6	-24	-60	-120	-210	-336	-504	-720
$z - z^3$ を 10 でわった余り	0	0	4	6	0	0	0	4	6	0

①より $x^3 + y^3$ の一の位の数は 0 または 4 または 6 であることが示された。(証終)

(2) $x^3 + y^3$ の一の位の数が 4 であるとき、(1) の表より $z = 2, 7$ のときに限られる。

一方、 $x^3 + y^3$ の一の位の数が 4 となる $\{x, y\}$ の組は (1) の表より

$\{0, 4\}, \{1, 7\}, \{2, 6\}, \{3, 3\}, \{5, 9\}, \{8, 8\}$

であるから、それぞれ $x^3 + y^3$ の値を求めると

$\{x, y\}$	$\{0, 4\}$	$\{1, 7\}$	$\{2, 6\}$	$\{3, 3\}$	$\{5, 9\}$	$\{8, 8\}$
$x^3 + y^3$	64	344	224	54	854	1024

ここで条件式を

$$100x + 10y + z = x^3 + y^3 + z^3$$

$$\iff x^3 + y^3 + z^3 - z = 100x + 10y \quad \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

と変形しておく。

(i) $z = 2$ のとき

$$x^3 + y^3 + z^3 - z = x^3 + y^3 + 2^3 - 2 = x^3 + y^3 + 6$$

であり

$\{x, y\}$	$\{0, 4\}$	$\{1, 7\}$	$\{2, 6\}$	$\{3, 3\}$	$\{5, 9\}$	$\{8, 8\}$
$x^3 + y^3 + 6$	70	350	230	60	860	1030

となり、②をみたす x, y, z の値は存在しない。

(ii) $z = 7$ のとき

$$x^3 + y^3 + z^3 - z = x^3 + y^3 + 7^3 - 7 = x^3 + y^3 + 336$$

であり

$\{x, y\}$	$\{0, 4\}$	$\{1, 7\}$	$\{2, 6\}$	$\{3, 3\}$	$\{5, 9\}$	$\{8, 8\}$
$x^3 + y^3 + 336$	400	680	560	390	1190	1360

となり、②をみたすのは $(x, y, z) = (4, 0, 7)$ のときである。

以上より、条件をみたすのは

$(x, y, z) = (4, 0, 7)$ (答)

である.

(3) $x^3 + y^3$ の一の位の数が 6 であるとき, (1) の表より $z = 3, 8$ のときに限られる.

一方, $x^3 + y^3$ の一の位の数 6 となる $\{x, y\}$ の組は (1) の表より

$\{0, 6\}, \{1, 5\}, \{2, 2\}, \{3, 9\}, \{4, 8\}$

であるから, それぞれ $x^3 + y^3$ の値を求めると

$\{x, y\}$	$\{0, 6\}$	$\{1, 5\}$	$\{2, 2\}$	$\{3, 9\}$	$\{4, 8\}$
$x^3 + y^3$	216	126	16	756	576

(i) $z = 3$ のとき

$$x^3 + y^3 + z^3 - z = x^3 + y^3 + 3^3 - 3 = x^3 + y^3 + 24$$

であり

$\{x, y\}$	$\{0, 6\}$	$\{1, 5\}$	$\{2, 2\}$	$\{3, 9\}$	$\{4, 8\}$
$x^3 + y^3 + 24$	240	150	40	780	600

となり, ②をみたすのは $(x, y, z) = (1, 5, 3)$ のときである.

(ii) $z = 8$ のとき

$$x^3 + y^3 + z^3 - z = x^3 + y^3 + 8^3 - 8 = x^3 + y^3 + 504$$

であり

$\{x, y\}$	$\{0, 6\}$	$\{1, 5\}$	$\{2, 2\}$	$\{3, 9\}$	$\{4, 8\}$
$x^3 + y^3 + 504$	720	630	520	1260	1080

となり, ②をみたす x, y, z の値は存在しない.

以上より, 条件をみたすのは

$$(x, y, z) = (1, 5, 3) \quad (\text{答})$$

である.

【配点の目安】

配点 : 25 点

(1) 5 点 (2) 10 点 (3) 10 点

(1) $\square_1$ $x^3 + y^3$ の一の位の数と $z - z^3$ を 10 でわった余りに着目して 2 点

$\square_2$ $z = 0, 1, \dots, 9$ について調べて 3 点

(2) $\square_1$ $z = 2$ で存在しないことを述べて 5 点

$\square_2$ $z = 7$ のときの解を求めて 5 点

(3) $\square_1$ $z = 3$ のときの解を求めて 5 点

$\square_2$ $z = 8$ で存在しないことを述べて 5 点

- 【3】(1) 曲線 $y = \sin x$ ($0 \leq x \leq \pi$) は上に凸な曲線であるから、 $0 \leq \alpha < \beta \leq \frac{\pi}{2}$ のとき
図のように

線分 DA, 線分 AB, 線分 BC, 曲線 CD で

囲まれた部分の面積を S

台形 ABCD の面積を T

とすると

$$S > T$$

である。したがって

$$\begin{aligned} \int_{\alpha}^{\beta} \sin x \, dx &> \frac{1}{2}(\beta - \alpha)(\sin \alpha + \sin \beta) \\ &= \frac{1}{2}(\beta - \alpha)\{\sin \alpha + \sin(\pi - \beta)\} \quad \dots\dots\dots ① \end{aligned}$$

同様にして

$$\begin{aligned} \int_{\pi - \beta}^{\pi - \alpha} \sin x \, dx &> \frac{1}{2}(\beta - \alpha)\{\sin(\pi - \alpha) + \sin(\pi - \beta)\} \\ &= \frac{1}{2}(\beta - \alpha)\{\sin \alpha + \sin(\pi - \beta)\} \quad \dots\dots\dots ② \end{aligned}$$

①と②の辺々を加えると

$$\int_{\alpha}^{\beta} \sin x \, dx + \int_{\pi - \beta}^{\pi - \alpha} \sin x \, dx > (\beta - \alpha)\{\sin \alpha + \sin(\pi - \beta)\} \quad \dots\dots\dots ③$$

よって、題意は示された。

(証終)

- (2) ③において、 $\alpha = \frac{n}{8}\pi$, $\beta = \frac{n+1}{8}\pi$ ($n = 0, 1, 2, 3$) とおくと

$$\int_{\frac{n}{8}\pi}^{\frac{n+1}{8}\pi} \sin x \, dx + \int_{\frac{7-n}{8}\pi}^{\frac{8-n}{8}\pi} \sin x \, dx > \frac{\pi}{8} \left(\sin \frac{n}{8}\pi + \sin \frac{7-n}{8}\pi \right) \quad \dots\dots\dots ④$$

④において、 $n = 0, 1, 2, 3$ とした式を辺々加えると

$$\sum_{k=0}^7 \int_{\frac{k}{8}\pi}^{\frac{k+1}{8}\pi} \sin x \, dx > \frac{\pi}{8} \sum_{k=0}^7 \sin \frac{k}{8}\pi \quad \dots\dots\dots ⑤$$

このとき

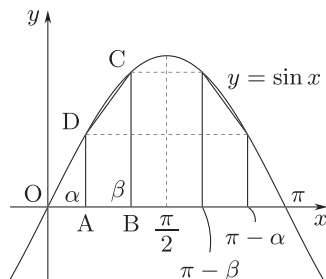
$$(\text{左辺}) = \sum_{k=0}^7 \int_{\frac{k}{8}\pi}^{\frac{k+1}{8}\pi} \sin x \, dx = \int_0^{\pi} \sin x \, dx = \left[-\cos x \right]_0^{\pi} = 2$$

$$(\text{右辺}) = \frac{\pi}{8} \sum_{k=0}^7 \sin \frac{k}{8}\pi = \frac{\pi}{8} \sum_{k=1}^7 \sin \frac{k}{8}\pi$$

であるから、⑤より

$$\frac{\pi}{8} \sum_{k=1}^7 \sin \frac{k}{8}\pi < 2$$

$$\therefore \sum_{k=1}^7 \sin \frac{k}{8}\pi < \frac{16}{\pi}$$



よって、題意は示された.

(証終)

【配点の目安】

配点：25 点

(1) 11 点 (2) 14 点

(1) ☐₁ 面積を比較する方針に 3 点

☐₂ $\int_{\alpha}^{\beta} \sin x \, dx > \frac{1}{2}(\beta - \alpha)\{\sin \alpha + \sin(\pi - \beta)\}$ を示して 3 点

☐₃ $\int_{\pi-\beta}^{\pi-\alpha} \sin x \, dx > \frac{1}{2}(\beta - \alpha)\{\sin \alpha + \sin(\pi - \beta)\}$ を示して 3 点

☐₄ 題意を示して 2 点

(2) ☐₁ $\int_{\frac{n}{8}\pi}^{\frac{n+1}{8}\pi} \sin x \, dx + \int_{\frac{7-n}{8}\pi}^{\frac{8-n}{8}\pi} \sin x \, dx > \frac{\pi}{8} \left(\sin \frac{n}{8}\pi + \sin \frac{7-n}{8}\pi \right)$
を示して 4 点

☐₂ $\sum_{k=0}^7 \int_{\frac{k}{8}\pi}^{\frac{k+1}{8}\pi} \sin x \, dx > \frac{\pi}{8} \sum_{k=0}^7 \sin \frac{k}{8}\pi$ を示して 4 点

☐₃ $\frac{\pi}{8} \sum_{k=1}^7 \sin \frac{k}{8}\pi < 2$ を得て 4 点

☐₄ 題意を示して 2 点

【4】(1) 定義より

$$\begin{aligned}
 I_k + I_{k+2} &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} (\tan^k x + \tan^{k+2} x) dx \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} (1 + \tan^2 x) \cdot \tan^k x dx \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1}{\cos^2 x} \cdot \tan^k x dx \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} (\tan x)' \cdot \tan^k x dx \\
 &= \left[\frac{1}{k+1} \tan^{k+1} x \right]_0^{\frac{\pi}{4}} \\
 &= \frac{1}{k+1} \quad (\text{答})
 \end{aligned}$$

(2) (1) より

$$I_k + I_{k+2} = \frac{1}{k+1}$$

$k = n, n+1, \dots, 2n$ として, 辺々加えると

$$\sum_{k=n}^{2n} I_k + \sum_{k=n}^{2n} I_{k+2} = \sum_{k=n}^{2n} \frac{1}{k+1}$$

$$\iff S_n + (S_n + I_{2n+1} + I_{2n+2} - I_n - I_{n+1}) = \sum_{k=n}^{2n} \frac{1}{k+1}$$

$$\therefore 2S_n = \sum_{k=n}^{2n} \frac{1}{k+1} - I_{2n+1} - I_{2n+2} + I_n + I_{n+1} \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

ここで

$$\begin{aligned}
 \sum_{k=n}^{2n} \frac{1}{k+1} &= \frac{1}{n+1} + \frac{1}{n+2} + \frac{1}{n+3} + \dots + \frac{1}{2n+1} \\
 &= \sum_{k=1}^{n+1} \frac{1}{n+k} \\
 &= \sum_{k=1}^n \frac{1}{n+k} + \frac{1}{2n+1} \\
 &= \sum_{k=1}^n \frac{1}{1 + \frac{k}{n}} \cdot \frac{1}{n} + \frac{1}{2n+1}
 \end{aligned}$$

より

$$\begin{aligned}
 \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=n}^{2n} \frac{1}{k+1} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \frac{1}{1 + \frac{k}{n}} + \frac{1}{2n+1} \right) \\
 &= \int_0^1 \frac{1}{1+x} dx
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
&= \left[\log(1+x) \right]_0^1 \\
&= \log 2
\end{aligned}$$

また, $y = \tan x$ は $\left[0, \frac{\pi}{4}\right]$ で下に凸のグラフであるから, 図より

$$0 \leq \tan x \leq \frac{4}{\pi}x \quad \left(0 \leq x \leq \frac{\pi}{4}\right)$$

$$\therefore 0 \leq \tan^k x \leq \left(\frac{4}{\pi}x\right)^k$$

この辺々を 0 から $\frac{\pi}{4}$ まで積分して

$$0 < \int_0^{\frac{\pi}{4}} \tan^k x \, dx < \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\frac{4}{\pi}x\right)^k \, dx$$

ここで

$$\begin{aligned}
\int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\frac{4}{\pi}x\right)^k \, dx &= \left(\frac{4}{\pi}\right)^k \cdot \frac{1}{k+1} \left(\frac{\pi}{4}\right)^{k+1} \\
&= \frac{\frac{\pi}{4}}{k+1}
\end{aligned}$$

より

$$0 < I_k < \frac{\frac{\pi}{4}}{k+1}$$

よって, はさみうちの原理より

$$\lim_{k \rightarrow \infty} I_k = 0$$

を得るから, ① より

$$\lim_{n \rightarrow \infty} 2S_n = \log 2$$

したがって

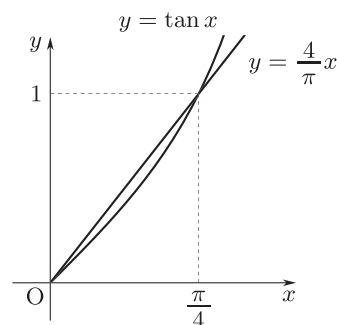
$$\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \frac{1}{2} \log 2 \quad (\text{答})$$

■ 注意

$\lim_{k \rightarrow \infty} I_k = 0$ は, 以下のようにも示せる.

$I_k \geq 0, I_{k+2} \geq 0$ であるので, (1) で示した $I_k + I_{k+2} = \frac{1}{k+1}$ より

$$0 \leq I_k \leq \frac{1}{k+1} \quad \therefore \lim_{k \rightarrow \infty} I_k = 0$$



【配点の目安】

配点 : 25 点

(1) 10 点 (2) 15 点

- (1) 答に 10 点
- (2) ☐₁ ① 式と同等の内容に 5 点
- ☐₂ $\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=n}^{2n} \frac{1}{k+1} = \log 2$ に 5 点
- ☐₃ 答に 5 点



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--